

「文と同じく、私も夫と子どもがいる身。家族の大切さを自分の人生経験と重ね合わせて、どこまで文という女性と一心同体になれるか、常に挑戦しています。」

もし夫が戦争に行くことになったらどう思うだろうとか、経験していない部分は想像しながら演じていますが、例えば女性として、母として、我が子の幸せを願う気持ちは今も100年前も同じだと思うんです。文は架空の人物ですが、私は100年前、文のような女性は実在したと思っっているんですよ。そう信じているから、私とその時代に生きていたらどんな気持ちだったかを、いつも意識しながら演じています。

時代が変わっても、『愛する人を守りたい』とか『幸せで生きてほしい』という思いは変わらないはず。だからこそ100年前の千歳村の人々が、愛する子どもたちの未来が幸せであるようにと願い、着陸場造った事実を知ったとき、大きな感動を覚えました。

未来に向かって諦めないで一步を踏み出すこと。100年前の人々にとってのそれが、鉄を手に力を合わせることであったように、今の時代、暗いニュースがいろいろあっても、難しいことじゃなくても笑顔でいるでもなんでもいいから、一歩踏み出してみることが大切。私はそう思いながら文を演じていますし、その思いが見た人にも伝わって笑顔になれる、『ちょっと頑張ろう』って思ってもらえる、そんな作品を届けたいです」

主人公 田畑文役
田中美緒さん



「もともと歌と踊りが大好きだったのですが、第1回公演から参加したお稽古が本当に楽しくて、すっかりはまってしまいました。この市民ミュージカルは、仲間が協力したり声をかけ合ったりして、メンバーのあたたかさが舞台にも反映されています。ここからさらにお稽古のギアを上げて、本番では皆さんにパワフルな舞台をお見せしたいです」

文の母 田畑みのり役
姉崎るり子さん

100 Anniversary
since 1926
千歳市空港開港100年

千歳市民ミュージカル第6回公演

文の見た空

北ガス文化ホール

10.3 Sat.
18:00開演

10.4 Sun.
14:00開演

空と千歳のゆかりを描いた郷土史劇として親しまれてきた千歳市民ミュージカルも、今回が最終回。主人公：文の視点を通して、村民の手による着陸場造成から戦後の民間航空再開までの千歳の歴史を、歌と踊りに乗せてお届けします。千歳市空港開港100年の節目である今年は、千歳ジュニアオーケストラ、混声合唱団「コーラス星の会」有志と共演。総勢100人を超える、かつてないスケールの舞台をぜひご覧ください。



MURATA HARUTO

「北海」第1号操縦士 酒井憲次郎役
村田 暖宝さん

「酒井憲次郎は、千歳に初めて飛行機を着陸させた重要人物であり、本作でも鍵を握る存在です。演じるプレッシャーも少しはありますが、頼もしくたくましい酒井憲次郎を、自分なりに精一杯演じたいです」

100年前の千歳の地に降り立った「北海」第1号と操縦士の酒井憲次郎。千歳のまちの重要なターニングポイントとして、着陸場造成とともに本作でも再現されています。

check

チケット情報

一般 1,000 円 (当日 1,200 円)
高校生以下 500 円 (当日 700 円)

紙 チケット

北ガス文化ホール事務室または
スタッフ・キャストから購入

電子 チケット

teket 購入はコチラ▶



SATO AOI

文の幼馴染
塩谷くに役
佐藤 葵さん

「5人の子どもの育てながらたくましく生きる女性を演じます。ミュージカルは楽しんでいただくのが一番ですが、同時に『千歳の歴史って、実はこんなこともあったんだ』と感じてもらえたらうれしいです」

文の幼馴染
榎原清役
石徹白 悟さん

「100年前の千歳村民は、身分も性別も関係なく『千歳を明るくしよう』との思いで着陸場造ることに夢をかけました。同じく、私たちも年齢も職業もまったく違う属性の人たちの集まりですが、一つの作品に向かって努力をし続ける様は、まさに市民協働の縮図であると考えています。その集大成をぜひ、皆さんに見てもらいたいです」

ITOSHIRO SATORU



千歳市民ミュージカル これまでの歩み

2020年の第1回公演以来、まちの歴史を学びながら楽しめる市民参加型ミュージカルとして、これまで5回にわたって上演されてきました。ここでは、現在まで長く愛され続けてきた千歳市民ミュージカルの歩みを振り返ります。

2020
1/18

第1回 あやの見た空



村民総出の着陸場造成から現代までの世相と人間ドラマを、歌と踊りを交えて描いた第1作。千歳市民ミュージカルの礎となった記念碑的作品。

2022
11/26, 11/27

第2回 文の見た空



大正、昭和、平成を駆け抜け、100歳となった文のまなざしを通して映し出される、千歳のまち100年のストーリー。

2023
11/11, 11/12

第3回 君住む町で



米軍が駐留する、戦後の混乱期真っただ中の千歳町が舞台。激動の時代を懸命に生きた、名も無き人々の物語。

2024
11/9, 11/10

第4回 それぞれの朝



大雪で閉鎖された空港を舞台に奮闘する、母と3人娘の姿を描いた現代劇。「普通って何だ？」の世代間ギャップから生まれる親子のドラマを描く。

2025
11/15, 11/16

第5回 文の見た空



第2回作品をリメイク。空港開港100年を翌年に控え、作品全体の精度と熱量を一段と高めて多くの感動を呼んだ公演。